

Association of serum s-adenosylmethionine, s-adenosylhomocysteine, and their ratio with the risk of dementia and death in a community

三原, 茜

<https://hdl.handle.net/2324/6787462>

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : © The Author(s) 2022. Open Access This article is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License



(別紙様式2)

氏 名	三原 茜
論 文 名	Association of serum s-adenosylmethionine, s-adenosylhomocysteine, and their ratio with the risk of dementia and death in a community
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 須藤 信行 副 査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副 査 九州大学 教授 磯部 紀子

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

申請者らは、日本の地域一般高齢住民における血清 s-アデノシルメチオニン (SAM)、s-アデノシルホモシステイン (SAH) およびその比と認知症発症および死亡の関連を検討した。久山町在住の認知症のない65歳以上の住民1,371名を中央値10.2年 (2007-2017年) 追跡した。血清SAM、SAHおよびSAM/SAH比はそれぞれ4分位を用いて4群に分類した。コックス比例ハザードモデルを用いて血清SAM、SAHおよびSAM/SAH比の全認知症発症もしくは死亡の複合アウトカムと全認知症発症、死亡のそれぞれをアウトカムとした場合のハザード比と95%信頼区間を算出した。追跡期間中に認知症発症または死亡の複合エンドポイントを認めた対象者は635例、認知症発症は379例、死亡は394例であった。複合アウトカムの多変量調整後のハザード比は血清SAMレベルが上昇するにつれて有意に低下し (傾向性P値=0.01)、一方で複合アウトカムの多変量調整後のハザード比は血清SAHレベルが上昇するにつれて有意に上昇した (傾向性P=0.03)。血清SAM/SAH比レベルの上昇は複合アウトカムのリスク低下と有意に関連した (傾向性P=0.002)。認知症発症、死亡の各々のリスクも同様に低下した。これらの結果は、メチオニン代謝産物のバランスは認知症発症および死亡のリスクと密接に関連する可能性を示している。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士 (医学) の学位に値すると認める。